

<全体分析>

試験時間 90分

解答形式

選択式(用語・地名の選択, 統計判定), 記述式, 論述式

分量・難易(前年比較)

分量 (減少)・やや減少・変化なし・やや増加・増加

難易(易化)・やや易化・変化なし・やや難化・難化

大問5題。選択式・記述式の解答個数は35で、昨年(27)に比べ増加した。一方、論述式では、字数指定のあるものが13問(昨年は12問)、総字数450字(昨年は490字)とやや減少、字数指定のないものは1問(昨年は6問)で大きく減少したので、論述式全体の総字数は昨年に比べ100字程度の減少となった。大問ごとにみると、字数指定問題がⅠは3問(100字)、Ⅱは2問(60字)、Ⅲは4問(130字)、Ⅳは2問(80字)、Ⅴは2問(80字)で、1問当たり字数は、20字が1問、30字が5問、40字が7問だった。字数指定のないものは、Ⅳで1問出題され、解答欄は1行(20~30字)である。難易度は、地形図の読図問題を含め、取り組み易いものが多く、昨年に比べ易化した。

出題の特徴

2019年から大問が1題増えて、5題の構成となっている。大問1題の配点が減り(25→20点)、大問数が増えたことで、より広い範囲から網羅的に出題する傾向が強まった。2022年度の出題テーマをみると、Ⅰが地形図読図、Ⅱが地形、Ⅲが工業、Ⅳが言語、Ⅴが地誌で、教科書の3大系統分野である自然、産業、社会と地誌分野をカバーしている。読図問題は、2015年以降、大問として出題されることが定着している。また、読図問題以外にも図表の読み取り問題が多く、本年度はすべての大問で地図や統計表、グラフなどの図表が使用された。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述式 論述式	地形図の読図	2万5千分の1地形図「養老」、同地域の2万分の1地形図(旧図)。記述式は、断層山地と扇状地の成因の空欄補充など。論述式は天井川の成因(40字)、低湿地(30字)と扇状地(30字)の災害リスク。	標準
II	選択式 記述式 論述式	地形	北海道の内水面。地図使用。選択・記述式は、火山とカルデラ湖、潟湖、釧路湿原の関連事項。論述式は、火山の東側に火山灰層が多い理由(40字)、ラムサール条約の目的(20字)。	易
III	記述式 論述式	工業	4か国の工業。グラフ使用。記述式は、アジア通貨危機、サードイタリー、ドイモイなど、グラフの判定を含む。論述式は、インド ICT 産業の人材の特徴(30字)と立地の優位性(40字)、韓国工業の特徴(30字)、イタリアの繊維・皮革産業の特徴(30字)。	標準
IV	記述式 論述式	言語	使用人口1億人以上の10言語。グラフ使用。記述式は、言語名、語族名、宗教など、グラフの判定を含む。論述式は、ニュージーランドの言語政策の特色(40字)、スペイン語・ポルトガル語の使用人口が多い歴史的な理由(40字)。	やや易
V	選択式 記述式 論述式	地誌	北アメリカ。リード文、地図使用。選択式は地図の資源産地判定、記述式はリード文の空欄補充(自然・産業)とUSMCAなど。論述式は、ホームステッド法の内容(40字)、NAFTA成立後のメキシコ産業の変化(40字)。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の上統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

教科書を利用した基本知識(地名や用語)の蓄積は当然だが、論述式への対応として、基本的な地理用語の語義、自然や人文現象の地域的な違いとその理由・背景などについて、簡潔に(20字~80字程度)ポイントを絞って書く練習を繰り返すことが必要である。また、地形図や統計図表の読み取りなど地理的技能や思考力を試す出題が多く、難問もあるので、日頃から図表の読解力を高めるよう心がけたい。特に地形図の読図問題は、毎年必ず出題されるようになっているので、早い時期から読図練習に取り組むことが必要である。これらについては、過去問を研究して確かめておこう。